

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-135	15-114	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
The association of pre-pregnancy alcohol drinking with child neuropsychological functioning. 妊娠前の飲酒習慣と子供の神経心理学的機能の関連		
執筆者		
Kesmodel US, Kjaersgaard MI, Denny CH, Bertrand J, Skogerboe A, Eriksen HL, Bay B, Underbjerg M, Mortensen EL.		
掲載誌		
BJOG. 2015 Dec;122(13):1728-38. doi: 10.1111/1471-0528.13172.		
キーワード		PMID
飲酒、妊娠、神経発達、知能、注意力		25395365
要 旨		
目的： 妊娠前の飲酒が小児の神経心理学的機能に及ぼす影響を評価する。		
方法： デンマークにおいて、1997～2003 年に登録された妊婦による Danish National Birth Cohort から、154 組の母子を対象とした。母親の妊娠前の飲酒量によって、非飲酒、週あたりの平均 15～21 ドリンク、22 ドリンク以上の 3 群に分けた (1 ドリンク=エタノール 12g)。子供が 5 歳の時点で知能、注意力、実行機能、運動機能を各々 WPPSI-R、TEACH-5、BRIEF、MABC によって評価した。BRIEF の評価は母親および保育施設の職員が行った。交絡の可能性から、両親の学歴、母親の IQ、出生前の母親の喫煙、評価時の子供の年齢、子供の性別、妊娠中の母親の飲酒状況を共変量とした。母親の妊娠前の飲酒量と子供の知能、集中力、実行機能、運動機能との関連を多重線形回帰によって解析した。		
結果： 妊娠前の週平均 15～21 ドリンクの飲酒は、いずれのアストカムとも関連が認められなかった。週平均 22 ドリンク以上の群では、非飲酒群と比較して調整した全検査 IQ、総注意スコア、持続的注意スコアが有意に低かった (各々 P=0.02, 0.01, 0.01)。しかし、選択的注意スコア、BRIEF スコアおよび MABC スコアとの関連は認められなかった。		
結論： 妊娠前の週平均 22 ドリンク以上の飲酒は、子供の全検査 IQ、総注意力、持続的注意力の低下と関連していた。妊娠前の飲酒習慣の評価により、子供の神経発達への影響について新たな知見が得られた。		